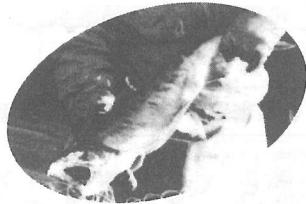
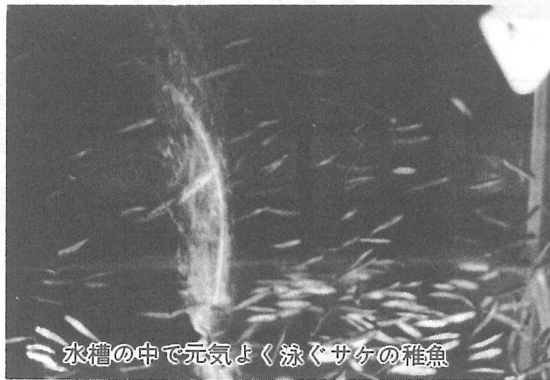


① 広報よこしば

5、6センチに育ったサケの稚魚が各小学校と文化会館で飼育されています。この稚魚は、今シーズンに栗山川に里帰りした1655匹のうちのメス740匹から採った卵を、県内水面水産試験場がふ化させ飼育したものです。放流日（3月下旬）までの期間ですが、生徒達は、大変喜んで、毎日水槽の前に来ては観察しています。



今シーズンは1,655匹の回帰



水槽の中で元気よく泳ぐサケの稚魚

栗山川のサケの稚魚 小学校などで飼育



展示された作品

郡市公民館活動の 成果を発表

学習成果の発表と、交流を通じ技術の向上をはかる「山武郡市公民館合同作品展」が、2月3日から6日間、町文化会館で開かれました。会場には、各公民館から搬入した、水墨画・書道・陶芸など、優れた多種多様な作品が展示されました。また、最終日（8日）に行われた芸能大会では、民謡・舞踊など玄人はだしの芸が披露されました。この作品展を通して、郡市の公民館活動が活発に行われていることが伺われました。

私のひとこと



21世紀のまちづくりとして、横芝町の基本構想を読ませていただきました。

その全方位を網羅したプランに先ず敬意を表します。

策定された基本構想の中で、「町民の憩いとくつろぎの場づくり」が掲げられています。だが、公園とか、休息施設とか、誰でも使用出来る町民憩いの場づくりは、次の世代の都市づくり、町づくりの最も大切な行政上の課題の一つだと考えます。と

「広報」2月号を読んで

秋山利夫（道貫）

身近に、もっと手軽にアクションを起こす方法はないだろうか。公共用地・共有空間の利用を各地区単位に進めて、現在荒れ放題になっている河川敷、排水路敷空間を整備して植樹し、張り芝をめぐらしての簡易休息施設なら町中いたる所に出来るはず。車をとめて思わず休息したくなるような休息スペースが町中に出来たとしたら、何とすばらしい町に变身するのだろうか。

われわれは、常に未来に向かっての雄大な構想をもって対応しなければならぬと同時に、自分の足元から目をはなした時、貴重な時間の浪費になることを意識しなければならぬ。

町の基本構想の策定は、確か昭和47年だときく。もし、その年に何かの桜の苗木を植樹していたら、この春には15年木として無数の開花を町民に披露しただろうと考えると、過ぎ去った日々が惜しまれられない。

特定地区のスペースを整備して総合公園をつくることは、財政措置を含めて大変な事業である。明るい町づくりをモットーにするならば、立派な設備をもつ公園の建設と連動して、もっと